

ハシドイ *Syringa reticulata* (Blume) H.Hara

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。西南日本ではとびとびに分布する樹木で、愛知県でも生育地が局限されている。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 6~7m になり、樹皮は横に皮目があってサクラに似る。葉は対生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は広卵形~卵形、長さ 6~10cm、幅 5~6cm、先端は急に鋭尖頭、基部は円形または浅い心形となり、全縁、表面は無毛、裏面は短毛があり、中肋基部近くに多い。花期は 6~7 月、花は両性で、新枝先端の円錐花序に多数密につき、白色、花冠は 4 裂し、直径約 5mm である。蒴果は狭長楕円形、長さ 15~20mm、やや湾曲し、熟すと 2 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 31348, 1987-5-4)、3 東栄 (芹沢 85006, 2009-9-22)。

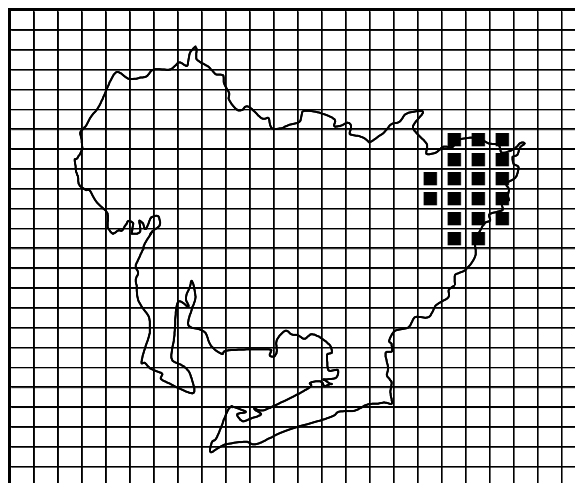
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯域の林縁などに生育する。愛知県では、山すその崖地や急傾斜地の林縁部に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、そこでは比較的まとまって生育している。現在のところよく開花するが、道沿いのものは道路の拡幅などで失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

本種の場合、生育地の林を伐採すれば影響は大きいですが、伐採せずに放置してもそのうちに他の樹木に被陰されて衰退すると思われる。適度に部分的な伐採を行い、さまざまな発達段階が混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

【特記事項】

東栄町には、マンシュウハシドイ var. *mandshurica* (Maxim.) H.Hara にあたる葉がほとんど無毛の個体も生育している。

【関連文献】

保木本 I p.85, 平木本 II p.178, 平新版 5 p.66, SOS 旧版 p.70.